

# 『イン・ザ・ミドル ナンシー・アトウェルの教室』 ◆◆◆◆◆目次◆◆◆◆◆

少し長めの訳者前書き

## ◆第1章 教えることを学ぶ

教師としての私の物語

ジェフとの出会い／ジェフと書くこと／教師も学ばなくてはならない／アトキンソン学校／私の教室で起こったこと／ライティング・ワークショップへ

バランスをみつける

初版の頃／「譲り渡す」ということ

リーディングはどうなっているの？

文学に満ち溢れた場所／二人の先生／自分で読むということ／選択が生み出すこと／リーディング・ワークショップへ／「当たり前」と「論理」

【コラム】アトウェルの学校はどんな学校？

## ◆第2章 ワークショップの準備

時間を確保する

教室

ピア・カンファランスの場所とやり方／図書コーナー／用紙とファイル／「今日の予定表」／「チェック・イン表」／「執筆記録用紙」／「読書記録用紙」／「ライティング・ワークショップで期待すること」／「ライティング・ワークショップのルール」／「校正項目リスト」／「校正チェック用紙」／「ピア・カンファランス用紙」／「リーディング・ワークショップで期待すること」／「リーディング・ワークショップのルール」／「ジャンル一覧リスト」／「本の貸出カード」／「ファイル」

【コラム】悩ましい授業時間確保と人数の問題／詩をひらくように読む

## ◆第3章 ワークショップ開始

毎日読む「今日の詩」／お互いに打ち解けるためのアクティビティ／家庭学習（宿題）と授業とのつながり

ライティング・ワークショップ開始

まずは、生徒をしっかりと知ることから／書く題材探し／詩の宿題から書くことを学び始める／3日目からは、サイクルを回し始める／最初の数日のカンファランスの実例

リーディング・ワークショップ開始

読む力は、読むことを通してしか培えない／教師と生徒によるブックトークの力／生徒たちが本に浸れるようにする

## ◆第4章 書き手を育てるミニ・レッスン

ワークショップで書く手順

書き手が使う技についてのミニ・レッスン／教師が書くプロセスを見せる／教師が自分で書いた詩を使って教える／それで？の法則／頭と心の法則／一粒の小石の法則／メモ書きの法則／下書きは行間を広くとる／題名の工夫

書き言葉の慣習

【コラム】書き言葉の慣習の大切さ

## ◆第5章 読み手を育てるミニ・レッスン

ワークショップで読む手順

実際に読むことについてのミニ・レッスン

心理言語学から読むことを見ると？／二つの読み方

文学についてのミニ・レッスン

批評家として詩を読む／ウィリアム・カーロス・ウィリアムズ／ウィリアムズをメンターにした生徒の作品／文学が教えてくれる価値／市民の育成に欠かせない新聞記事／ジャンルとしてのテスト対策／長期休暇中の読書

## ◆第6章 一人ひとりの書き手を教える

書き手を育てるカンファランス

カンファランスでの譲り渡し／コメントは執筆中に／カンファランスは生徒のところで

書くときに遭遇する課題とその対処法

情報が不十分である／書き手の姿が見えない／余分な修飾語が多すぎる／題材が大きすぎる／終わり方がうまくいかない／書き出しがうまくいかない／読者に映像が見えてこない／情報が整理されていない／書く題材が見つからない／言葉づかいがうまくいかない／

## ◆第7章 一人ひとりの読み手を教える

リーディング・チェックイン

文学について対話するレター・エッセイ

【コラム】チェック・イン＝カンファランス？／レター・エッセイの役割

## ◆第8章 価値を認める・評価する

自己評価

教師による評価

次の目標を定める／段階別の成績を出す場合

巻末資料

1 アトウェルが示す多くの出版方法

2 アトウェルのカリキュラムのサイクル

3 ライティング／リーディング・ワークショップ資料（日本語）

文献一覧／図版一覧